

評価の観点	評価	保護者				教職員				アンケート評価の結果		課題及び改善策・向上策
		人数	割合	昨年の割合	コメント	人数	割合	昨年の割合	コメント	外円：保護者	内円：教職員	
1 授業づくり	A	17	63%	52%	<ul style="list-style-type: none"> 運動、畑作業、歌などいろいろな体験をさせていただき、興味を引き出してもらえていると思う。 子どもの特性をとらえやる気を引き出しながら指導してくださっていると思います。 毎日の送迎時や連絡ノートから様子が分かりとても有り難く感じています。本人の頑張った所や成長した所を必ず教えていただけるので、親としてはとてもうれしい限りです。 「はあ～」とため息をつきたいと思うところではありますが、無理矢理ではなくその時、その場所にあったやり方で接していただいていると思います。 年齢に応じて勉強の仕方をレベルアップしてほしい。 	0	0%	5%	<ul style="list-style-type: none"> 生単の中身はその年々の子どもたちの実態に応じて検討していく方向がよい。 放課後に翌日からの子どもの支援を想定しながら授業準備できる環境を整える必要がある。 		<p>保護者からは、授業を通して子どもの興味を広がっていることや、主体性を大切に、特性や状況に応じたかわり方をしたことが意欲の向上につながっていることに対して評価をいただいた。Aの割合が昨年度に比べ11ポイント上昇している。一方、年齢に応じたレベルアップを望む声もあった。教職員からは、生活単元学習の授業づくりでは、前年踏襲ではなく、その年々の子どもの実態（願いやねらいも含めて）に応じて組み立てていくことの方向性が挙げられた。今後も児童・生徒の実態をしっかりと把握し、一人ひとりの願いや思いを大切に、子どもたちが自らの力を十分発揮し、成就感や達成感、満足感を感じ、可能性を伸ばす授業づくり、生活づくりを図っていききたい。</p>	
	B	10	37%	45%		17	89%	84%				
	C	0	0%	3%		2	11%	11%				
	D	0	0%	0%		0	0%	0%				
	合計	27	100%			19	100%					
2 教育課程編制	A	20	74%	55%	<ul style="list-style-type: none"> 「褒めて励ます、本人のやる気が出て頑張る、頑張りをねぎらう、よくできた所を褒める」の流れを本当にいろいろなことができるようになったなあと感じます。また、緊張をほぐしてリラックスできるようにしていただけて有り難いです。 気持ちの切りかえなど難しいですが、強制選送ではなく、時間がある程度かけ誘導する形で本人の意思を尊重しているように思われます。 将来のことを見据えて指導してほしいです。 	3	16%	5%	<ul style="list-style-type: none"> 個別の学習の内容についてほかの方の取り組みなども知りたい。 その子がもう少しでできつつあることや心の変化を職員間で共有して支援していきたい。 その子どもの卒業後（5年、10年、その先まで）のプランを関係する人々と語り、具体的に動いていく。 		<p>保護者からは、子どもへの指導方法を工夫している点から育ちが見られたことや子どもに寄り添いながら支援することを評価する意見があった。Aの割合が昨年度に比べ19ポイント上昇している。教職員からは、他の教職員の指導方法や指導内容を知りたいといった情報の共有化の必要性やその子の発達に最近接領域をしっかりと捉え、育ちを職員間で共有しながら適切な支援を行う必要性が挙げられた。児童生徒にかかわるすべての職員が、将来を見据えて、一人ひとりの育ちを的確にとらえ共有し、PDCAサイクルを活用し、指導内容や指導方法、指導体制など柔軟に工夫を加え一人ひとりに適切な教育課程を編成していきたい。</p>	
	B	7	26%	38%		13	68%	79%				
	C	0	0%	7%		3	16%	16%				
	D	0	0%	0%		0	0%	0%				
	合計	27	100%			19	100%					
3 個別の指導計画	A	20	74%	62%	<ul style="list-style-type: none"> 現在の状態をよく見て、「少し頑張ればできる」ことを用意していただけるので、嫌にならず着実に力をつけることができていると思います。 充分対応していただけて、満足しています。個別の課題、宿題が本人の興味もてる内容なので、楽しく身につけていきますね。ありがとうございます。 細かなところまで見ていただいております。毎日同じことの繰り返しでだんだんとスムーズにできてきていると思います。 支援指導は先生方が話し合いをしてほしい。 	4	21%	11%	<ul style="list-style-type: none"> 作成時にクラスで検討し児童理解を深めることができた。 自分自身の反省として活動自体を目標にしがち。そこでどんなことをねらえるのかを明確にできる力量をつけたい。 小さなこと（スモールステップ）だけでなく物事を広く（社会的に）大きく（全体像を）捉えていくと何が大切であるかが見えてくるのでそんな見方を進めたい。 		<p>Aの割合が昨年度に比べ保護者で12ポイント、教職員で10ポイント上昇している。個別の指導計画について保護者と共に検討・作成し、個別のニーズを丁寧にくみ取り、振り返りを行いながら、授業改善を行っていることが評価されたものと思われる。一方、教職員で共有する必要性のご意見もいただいた。教職員からはねらいが明確になる書きぶりを心掛けてほしいという意見があった。情報共有のための共通の支援ツールとしての活用を一層促進、校内ではPDCAサイクルで個別の指導計画を振り返ったり、県の統一書式導入に向け本校の推進計画をたてたりしながら個別の指導計画をより活用して支援・指導にあたっていききたい。</p>	
	B	7	26%	34%		14	74%	79%				
	C	0	0%	3%		1	5%	11%				
	D	0	0%	0%		0	0%	0%				
	合計	27	100%			19	100%					
4 交流及び共同学習	A	13	48%	45%	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はコロナの影響があったと思う。 コロナの影響のある中でも、いろいろ工夫して交流機会を作ったこと、ありがとうございます。 今年度コロナのことがあり、交流を行っているか評価できませんが、来年度以降に期待を込めてBとさせていただきます。 相手校の先生方と調整していただき無理のない内容で言葉は発せなくても理解でき本人も喜んでいました。 交流に関する内容はよかったです。 普通学級との交流は難しいので、支援学級との交流にしたいと思います。 須坂小と中学部ではほとんどないに等しい。顔を合わせるのだから先生方も含め挨拶ぐらいあっていいと感じる。 	2	11%	26%	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で本年度はあまりできていない。 コロナのこともあり、無理せずできるように思う。 コロナでほとんど交流ができなかったという意味のCです。 今年度はコロナ禍の中で交流活動が進まなかった。非常に残念であるが、インクルーシブ教育システムの先駆となる本校の使命からどんな形で交流できるか考えていきたい。 常盤中との交流、今年度はコロナ禍で機会が少なくなってしまっているのが残念。 コロナ感染対策のため、中止になることが多く残念です。 インクルーシブな関係を築いていきたい。 コロナ関連でできない部分もありましたが、T小学校との交流は数多くでき、本校児童にとってよい経験となりました。 コロナであまり実施できないので評価なし。 お互いの存在が日々意識できずごく好意的に我々を認めてくれる先生方にも感じ。これからの開かれた社会への橋渡しになるよう、めげないでいく。 		<p>今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、多くの交流及び共同学習が圏域警戒レベルの状況を踏まえ中止を余儀なくされた。2学期からは、ビデオレターや手紙のやり取りといった間接的な交流も含め工夫しながら行った。Cの割合が保護者で7ポイント、教職員で40ポイント増えているが、個々に行った交流については、満足しているとの回答も多かった。今後はインクルーシブ教育システムの先駆として、コロナ禍においてもどのような交流が可能かを模索するとともに、併設校の須坂小学校や隣接校の常盤中学校との交流に関して、共に在る、共に作り上げていくことをお互いに意識して、お互いにとって有意義となるものにしてほしい。行事への参加の仕方については、児童生徒の願いや実態に応じたあり方を工夫し、より主体的な活動になるようにまた、相互理解につながるものにしてほしい。</p>	
	B	12	44%	52%		6	33%	58%				
	C	2	7%	0%		10	56%	16%				
	D	0	0%	3%		0	0%	0%				
	合計	27	100%			18	100%					
5 個に応じた指導	A	20	74%	66%	<ul style="list-style-type: none"> カードや音の出る教材を使って意思の疎通ができるよう考えてくださっていると思います。 興味も薄れていくものに関してはすぐに分かるので（飽きて）次のステップに移っていただけて毎日楽しんで取り組み、家でも復習しています。 プリントが毎回一緒なので違う教材で勉強させてほしい。 	5	26%	16%	<ul style="list-style-type: none"> みらいスクールサーバーがあることにより視覚支援が充実し活動や学習に見通しをもたせやすくなった。 自分の反省であるが個別の学習がマンネリ化しがちである。ステップアップしたり、子どもが喜んで取りくめるような教材教具を工夫したりということをさらに計画的にやってほしい。 教材研究する時間がなく、言葉掛けの多い指示待ちの活動となってしまっている。 苦労して作った教材教具が目に見えて子どもの役にたっている、楽しんでもらっていると感じさせてもらった。教材教具の保管もきちんとしたい。 		<p>保護者から、一人ひとりに応じた子どもが興味もてる教材教具の工夫や適切な実態把握による新たな教材が、個に応じた必要な支援になっているという評価をいただいた。教職員からは教育環境の整備により視覚支援が充実し、子どもたちが活動や学習に見通しをもちやすくなったという評価があった。一方、保護者から使う教材が毎回一緒なので違う教材で勉強させてほしい、教職員から個別の学習での教材がマンネリ化しがちとの意見があった。これに対しては、使用している教材の価値やねらいを保護者と共有し理解を得るとともに、児童・生徒の実態を把握し、改善する必要がある場合は速やかに改善し、より一層一人ひとりが力を発揮できる支援をしていけるようにしたい。また、専門性サポートチームと協力して客観的なアセスメントをもとに個に適切な教材を選定できるようにしたい。</p>	
	B	6	22%	28%		12	63%	79%				
	C	0	0%	7%		2	11%	5%				
	D	1	4%	0%		0	0%	0%				
	合計	27	100%			19	100%					
6 チームでの支援	A	22	81%	59%	<ul style="list-style-type: none"> 相談したいことなどがあるときクラスのどの先生に聞いてもよく相談にのっていただけるので安心してできるし助かっています。 保護者としては、先生方でも情報共有ができていたり、係分担がしっかりできていたりして驚くことが多いです。大切なことですよ。すばらしいと思います。 毎朝先生方には挨拶（声掛け）をしていただいているので顔を覚えていると思います。協力体制で支援されていると感じます。 	5	26%	21%	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりのことを部全体で理解を深めている。 子どもの支援についてしっかり相談して次の日を迎えたいが、そうした時間がなかなか取れない。 1対1対応になってしまうことが多い。 それぞれの先生方が自分の持ち味を発揮されお互いカバーや影響を与えている。支援会議はその場や目先の対応策だけでなくその子どもの将来まで見据え関係者が互いに工夫していきたい。 		<p>Aの割合が昨年度に比べ保護者で22ポイント上昇している。これについては、チームで支援にあたることを踏まえ、日常的に児童・生徒の情報を交換する機会を設けたり、個別の指導計画の作成・検討を経て、児童・生徒の情報共有を意思統一を行ったりしていくことが評価されたと思われる。教職員からは、子どもの支援についてしっかり相談して次の日を迎えたいがそうした時間がなかなか取れないとの意見が挙がった。学校体制として、情報交換の時間の確保に努めるとともに、放課後の環境整備や消毒作業時などちょっとした時間を利用して職員がより情報交換できるようにしていく。また、学校全体として、全職員間で支援情報の共有を図るとともに小学部・中学部の部間の連携も今以上に取れるようにしていきたい。さらに担任と専門性サポートチーム、養護教諭等が密接に連携を取りながら、それぞれの立場から複眼的視点で児童・生徒を見ることにより、多面的に支援ができるようにしたい。</p>	
	B	5	19%	38%		11	58%	58%				
	C	0	0%	3%		3	16%	21%				
	D	0	0%	0%		0	0%	0%				
	合計	27	100%			19	100%					
7 安全・安心な学校	A	21	78%	66%	<ul style="list-style-type: none"> 何よりも子どもが毎日喜んで学校へ登校しているの、それが安全・安心な学校なのだと思います。 充分満足しています。 ケガが何度か繰り返したので心配しました。現在は大丈夫です。 子どものことなので気を付けていてもケガはします。先日歯医者で前歯がかけられていると言われましたが、学校なのか、デインなのか、家なのかは分かりません。学校では事故事件がおきたら、その後の対応・処置を重視したいと思います。 一人の生徒に目を向けるのは仕方ないが、他の生徒にも目を向けてほしい。 	2	11%	16%	<ul style="list-style-type: none"> クールダウンをしたり、安心できる環境を整えていきたい。 職員としては一生懸命やっているが、子ども間でトラブルがあり、安心して生活できない状況があった。 校舎や設備の老朽化による危険や普通学校の校舎であるので階段など危険と思われる箇所がある。 8時15分に児童生徒を受け入れるが、勤務時間の関係で全員の職員が教室にいられない状況がある。 打ち合わせをする時間がなく情報共有できずケガが多かった。 子どもが友だちに手を出すこともあり保護者の方にはご心配をかけてしまいました。 ゆとりをもちその子ども自身の育ちや日々の充実した生活を中心に預かれるようにしたい。 職員も人間なのでいろいろあるがしっかりと寝て、自分自身の生活をきちんと整えなければいい状態が人様の前には立てない。 		<p>昨年度に比べ、保護者はAの割合が12ポイント上昇し、教職員はCの割合が31ポイント増加した。保護者から学校内で起きたケガに対して、心配する声や事後の対応をしっかりと検討し行うよう要望があった。これに対しては、児童・生徒の突発的な行動から起きる事故に関しては、特性を十分理解したうえで支援にあたり、未然に防ぐように万全を期す。万が一起きたら防げたかについて対応策を検討し支援に活かすことを徹底していきたい。教職員からは、クールダウンの部屋や活動場所の不足といった教育環境の不足面や友だちとのトラブルからの手出し、受け入れ体制や労働環境に関する不備などについて意見があった。児童生徒の安全・安心な学校づくりは最優先課題として、併設校の須坂小学校と協議したり、須坂市教育委員会にも実情を理解してもらったりして、早急に問題点を洗い出し、改善を図っていききたい。</p>	
	B	5	19%	34%		9	47%	74%				
	C	1	4%	0%		8	42%	11%				
	D	0	0%	0%		0	0%	0%				
	合計	27	100%			19	100%					
意見・要望等	保護者				教職員				アンケート評価の結果		課題及び改善策・向上策	
	<ul style="list-style-type: none"> いつも熱心なご指導ありがとうございます。 前年度末からのコロナ禍で通常の業務のほかにコロナ対応、消毒等の衛生管理に追われる日々と思いますが、そんな中でも変わらないご指導をいただけていること何より感謝です。 いつもきめ細かな指導ありがとうございます。 先生方が昨年記入されたコメント欄の嘆きを見て正直ショックでした。多くの保護者は学校・先生方に感謝と敬意の気持ちを持っているはず。先生と保護者が同じ思いでいられたらいいなあと思います。 個々に合わせた支援をしていただいていると思いますが、もう少し厳しく指導してもよいのではと思うときがあります。 登校時間が少々早いのですが下駄箱横に椅子など用意していただき、先生方、皆さんに声をかけていただけてご配慮ありがたく感じております。 				<ul style="list-style-type: none"> 教頭先生や事務の先生も含め、チームで子どもたちのために取り組んでいるのを感じ、とても働きやすいです。 学校がOne Teamとなって進んでない。 子どものためにと先生方はつい頑張ってしまうが、せめて夕食を家族ととるとか休日は家族や自分のために時間を使い、学校の仕事はしなくても済むようにしたい。 小さなことを少しずつ見直しいろいろなタイプの先生方が来たいと思える学校にしたい。 				<p>アンケートの回収率は高く、調査結果は信憑性の高いデータであるといえる。今年度の学校重点目標1「教育課題を明確にし、自立に向けた教育の推進をめざして」については、児童生徒理解やその指導・支援のあり方については、職員会議において毎回確認を全職員で情報共有し、個別の指導計画については、学級担任、保護者、専門性サポートチームを含め、複数の職員で個別のニーズを丁寧にくみ取り作成し、振り返りを行いながら授業改善に活用したりして支援・指導にあたってきた。今後は、児童・生徒や保護者の皆さまの教育的ニーズを的確にくみ取り、これまで以上に教育活動に反映できるように、関係者が連携を図りながら複数の教職員が対応にあたるようにしていく。小学部・中学部の独自性を保ちつつ、部を超えた連携をして一体感のある学校づくりに取り組んでいく。自らの力を十分発揮できるように、できる状況づくりを進め可能性を伸ばす学校づくりを図っていく。学校重点目標2「地域における特別支援教育の推進と共生・教育をめざして」については「支援や評価を考えるときに大切なこと」「地域で存在際立つ須坂支援学校」「就労・自立に向けて」「子どもの姿勢・運動特性と自立活動」「進路講演会」等の研修を計画・実施し、特別支援学校職員として幅広専門性を高めるよう努めてきた。今年度新型コロナウイルス感染症予防から交流及び共同学習が中止されることが多くあったが、このような状況下でのような交流が可能かを研究していくとともに、交流校とともに共に作り上げていく交流をめざし、お互いにとって価値のあるものとしていきたい。交流及び共同学習への参加の仕方については、児童生徒の願いや保護者と相談しながら個別の指導計画を基に個々の実態に応じて参加の仕方を一人ひとりに応じたものにしていく。また、今までと同様に、地域に開かれた学校をめざし、地域の方々との交流も引き続き行い学校教育目標の具現を図っていききたい。</p>			